

## 春季セミナー開催に寄せて

東京矯正歯科学会

会長 中村 芳樹

春の日差しが暖かく、多くの花や木々が芽吹いてまいりましたが、会員の皆様におかれましてはご健勝にてご活躍のことと拝察致します。

東京矯正歯科学会では恒例の春季セミナーを迎えることとなりました。今回のセミナーのテーマは「矯正歯科医療における口腔衛生管理」です。

矯正歯科医療において齲蝕や歯肉炎・歯周炎の発生を予防することは矯正歯科治療を安全確実に進めるうえでとても重要なことです。日常の矯正歯科臨床においては、私を含めて多くの先生方は「歯を磨きなさい、歯を磨きなさい」と毎回の診療ごとに伝えていていると思います。よく考えてみると、「歯を磨く」という「手段が目的化」して、歯を磨く本当の目的、すなわち歯に付着している細菌やプラークを取り除くことが重要だということをあまり伝えていないのではと反省している次第です。

今回のセミナーでは「矯正歯科医療における口腔衛生管理」というタイトルで3名の講師をお招きしております。

日本歯科大学の苅部洋行先生には齲蝕リスク評価と、その評価に対応した齲蝕管理の方法について講演していただく予定です。

歯科衛生士の住友真紀氏には齲蝕予防の現場の視点から効率的で効果的な口腔衛生指導について講演していただく予定です。

昭和大学の弘中祥司先生には口腔衛生管理の中での重要な因子である口腔機能管理について講演していただく予定です。

今回のセミナーが皆様の明日の矯正歯科臨床における「口腔衛生管理」にお役に立てば幸いに存じます。多数の方々に御来聴いただきますよう、心よりお待ちしております。

日本矯正歯科学会認定医の方は、当日、IDカードをお持ち下さい。セミナー参加者は、研修ポイント5点が加算されます。



(有楽町マリオン11階) (Tel. 03-3284-0131)  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 (Fax. 03-3213-4386)

### 今後のご案内

- 第76回東京矯正歯科学会学術大会  
日時：平成29年7月13日(木) 10時～  
会場：有楽町朝日ホール
- 平成29年度秋季セミナー  
日時：平成29年11月16日(木) 18時～  
会場：有楽町朝日ホール

詳細は決まり次第学会ホームページに掲載いたします

東京矯正歯科学会  
東京都豊島区駒込 1-43-9 (〒170-0003)  
一般財団法人口腔保健協会内  
TEL 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

平成29年

# 東京矯正歯科学会 春季セミナー

## 矯正歯科医療における口腔衛生管理

モデレーター：榎 宏太郎 学術委員長

講演者：苅部 洋行 先生

住友 真紀 先生

弘中 祥司 先生

日時・平成29年4月13日(木曜日)  
午後6時より

場所・有楽町朝日ホール

当日会費・無料 (会員、会員同伴のコデンタルスタッフ)  
¥3,000(非会員)

## 荻部 洋行 先生

1987年 日本歯科大学歯学部卒業  
1991年 日本歯科大学大学院修了、歯学博士  
1991年 日本歯科大学歯学部小児歯科学教室助手  
1999年 カリフォルニア大学サンフランシスコ校留学  
2002年 日本歯科大学附属病院小児・矯正歯科講師  
2004年 日本歯科大学附属病院小児・矯正歯科助教授・科長  
2006年 日本歯科大学生命歯学部小児歯科学講座教授  
日本小児歯科学会専門医指導医、日本障害者歯科学会認定医、  
日本口腔顔面痛学会指導医



### リスク評価による齲蝕管理法 —日本版 CAMBRA の提案—

本邦における小児の齲蝕罹患率は1980年頃をピークに減少傾向にあることが報告されています。文部科学省による平成28年度学校保健統計調査では、12歳の1人平均齲蝕歯数（永久歯）は0.8本まで減少し、過去最低となっています。一方、厚生労働省による最新の歯科疾患実態調査では、1人平均DMF歯数（永久歯）は20歳で5.9本となり、30歳では10.7本と急激に増加していきます。このことから、12歳以降での齲蝕歯数の増加傾向は依然として解消されていないことがわかります。

それでは、画一的にプラークコントロールを行い、ティーンエイジャーにみられる要観察歯（CO）を齲蝕に発展させないための努力をすれば、このような問題は解決するのでしょうか。答えはそう簡単ではありません。口腔内の環境は、人によってさまざまであり、そのため齲蝕を発症するリスクも異なります。ですから、リスクの異なる人に同じようなアプローチを行っても齲蝕予防の効果を最大限に発揮できるかどうかはわかりません。そこで、個人のリスクに応じた個別のアプローチが必要になってきます。では、どのようにリスクを評価し、どのようにアプローチすればよいのでしょうか。

本講演では、システム化された医療面接と口腔内検査による齲蝕リスク評価と、その評価に応じた齲蝕管理が系統的に行える方法として、リスク評価による齲蝕管理法（Caries Management by Risk Assessment: CAMBRA）を紹介します。CAMBRAは2002年にカリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）のFeatherstone教授らによって提唱された方法で、乳児から成人まで簡便に使用することができます。そこで、本講演ではオリジナルの方法を紹介しつつ、日本の事情に合わせて一部改変した日本版CAMBRAを提案したいと思います。矯正歯科治療を受けている患者さんに対する口腔衛生管理の一助となれば幸いです。

## 住友 真紀 先生

1996年 大阪産業大学附属歯科衛生士専門学校  
（現：なにわ歯科衛生専門学校）卒業  
1996年～ 医療法人イノウエ矯正歯科勤務  
2013年～ なにわ歯科衛生専門学校非常勤講師



### 矯正歯科治療を通して 歯を愛する心を育む口腔衛生指導

私とイノウエ矯正歯科との関わりは、高校生の時に矯正歯科治療を受けたことから始まりました。その頃は患者の目線で、その後歯科衛生士となり予防を指導する側として、さらに出産後は矯正歯科治療を受けている子どもの親という立場からと、さまざまな方向から矯正歯科治療と予防について考えてきました。

確実に予防歯科が広まっている現代でも、患者様や保護者の方、ママ友からも「矯正装置をつけると虫歯になるのは仕方ないのですか?」「矯正治療中に虫歯になったら、こちらで治療できますか?」とよく質問されます。「矯正歯科治療＝虫歯になる」というイメージはまだ根強く残っているようです。

虫歯ができたなら治すのではなく、虫歯にならない口腔内環境をつくることを目標に予防に取り組んできました。特に子どもたちにとっては、虫歯治療ではなく矯正歯科治療を目的として定期的に歯科医院に通院することは、「う蝕予防という習慣」「自分の歯に愛着を持つ感覚」を身につけてもらえるチャンスと捉えています。

しかし、矯正歯科治療の診療と並行して、患者様全員の予防を完璧に行うことは時間的に容易ではありません。

患者様ご本人も保護者の方もそして私たち医療側も、みんなが幸せになれる効率的で効果的な予防を試行錯誤し続けている当院の歩みをご紹介させていただきます。矯正歯科と長く関わり続けてきた経験が少しでもお役に立てば幸いです。皆様のご意見をいただいて、私たちが更なるステップアップを目指していきたいと思っております。

## 弘中 祥司 先生

1994年 北海道大学歯学部歯学科卒業  
2000年 北海道大学歯学部附属病院助手（咬合系歯科）  
2001年 昭和大学歯学部口腔衛生学教室助手  
2013年 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座  
口腔衛生学部門教授  
昭和大学口腔ケアセンター長（併任）  
昭和大学スペシャルニーズ歯科センター長（併任）



### 乳幼児期の食支援と口腔衛生管理

食支援は、食べ方だけではなく、食材についての知識啓発まで広く含まれています。生後に獲得するこの機能は、学習によって獲得される機能です。しかし、この食べる機能の発達は個人差が大きく、「よく噛まない・うまく飲み込めない」という訴えは幼児期において、比較的多い訴えの一つです。実際に、このような幼児期の食行動を育てる場合には、本当に「できない」機能的因子（口腔機能発達不全症）なのか、それともできるけど「しない」意欲の問題なのかを見分けて対応していく必要があります。機能的因子が強い場合には、習慣化し歯列に影響を及ぼすことはよく知られています。

今回の講演では、口腔衛生管理の中でも特に口腔機能管理を中心にお話をさせていただきます。低年齢児によくみられる症状として、①哺乳動作の遷延、②噛む行動が少ない場合、などが挙げられます。

①哺乳動作の遷延：母乳や哺乳瓶・おしゃぶり・指しゃぶりが好きな赤ちゃんほど、この乳児型の学習を繰り返しているため、舌の前方から中央の動きが悪くなり、日々繰り返し学習しているために、「吸うようにして飲む」「丸呑みする」「口腔の前方に食物が残る」ことが食事中に発生します。

②噛む行動が少ない場合：「噛む」ことは、離乳の後半以降に獲得される機能であり、乳臼歯が生えそろった2歳半過ぎ（乳歯列完成期）までは機能発達面でのバリエーションも大きいです。噛むという動作は、低年齢の幼児にとって、歯の萌出の有無や食形態の不調などによっても大きく影響を受けるため、一過性の食行動の場合も多いです。また、これまでの食体験や食経験、さらには口腔の状態（齲蝕や歯列不正など）によっても、噛む機能は大きく影響を受けます。

これまでの研究のデータを交えながら、ごく早期における口腔衛生管理についてお話ししたいと思います。